

ABSTRACT / ZUSAMMENFASSUNG / ABREGE

05004694.5

A method of treating asthma in a subject in need of such treatment is disclosed. The method comprises administering to the subject dehydroepiandrosterone, analogs thereof, or pharmaceutically acceptable salts thereof in an amount effective to treat asthma.

XP-002328113

(C) WPI / DERWENT

AN - 1978-26429A [14]

CPY - EISA

DC - B05

FS - CPI

IC - A61K31/12

MC - B04-B02C1 B12-D02 B12-K02

M1 - [01] V800 G100 M531 L951 H541 H542 H711 H722 H723 M240 M232 M233 M331 M333 M510 M520 P431 P433 P733 M540 P822 M781 R000 M414 M902

M2 - [02] K0 H5 H7 M282 M210 M211 M226 M231 M232 M240 M270 M311 M316 M320 G100 M531 L951 H541 H542 H711 H722 H723 M510 M520 P431 P433 P733 M540 P822 M781 R000 M414 M902

PA - (EISA) EISAI CO LTD

PN - JP53020432 A 19780224 DW197814 000pp

- JP59038206B B 19840914 DW198441 000pp

PR - JP19760094946 19760811

XIC - A61K-031/12

AB - J53020432 Remedy used for treatment of asthma and bronchitis contains coenzyme Q of formula (I): (where n is 7-10), as main component. The coenzyme Q is pref. coenzyme Q10. The adult dosage of coenzyme Q is ca. 5-200 mg. per day. Admin. of coenzyme Q may be carried out orally or by injection. Form of drug may be powder, granules, tablets, capsules or injection prepns.

IW - DRUG TREAT ASTHMA BRONCHIAL CONTAIN COENZYME-Q MAIN COMPONENT IKW - DRUG TREAT ASTHMA BRONCHIAL CONTAIN COENZYME-Q MAIN COMPONENT NC - 001

OPD - 1976-08-11

ORD - 1978-02-24

PAW - (EISA) EISAI CO LTD

TI - Drug used for treatment of asthma and bronchitis - contg. coenzyme=Q as main component

(9)日本国特許庁

公開特許公報

10 特許出願公開

昭53-20432

51 Int. Cl². A 61 K 31 12

红特

識別記号 ACD 49公開 昭和53年(1978) 2 月24日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全3 頁)

移補酵素Qを主成分とする気管支喘息治療剤

願 昭51-94946

發出 願 昭51(1976)8月11日

包発 明 者 根本俊和

前橋市下小出町138---8

並出 願 人 エーザイ株式会社

東京都文京区小石川 4 丁目 6 番 10号

明細 化自由

1 発明の名称

補酵業Qを主成分とする気管支喘息治療剤

- 2. 特許請求の範囲
- (1) 一般式

(式中nは7~10の整数を示す)

で扱わされる補酵業Qを主成分とする気管支喘息 治療剤

- (2) 補酵祭Qが補酵絮Qto である, 特許請求の 範囲第1項記載の気管支喘息治療剤
- 3 発明の詳細な説明本発明は次の一般式

 $(n = 7 \sim 10)$

で表わされる補酵器Qを主成分とする気管支喘息 治療剤に関するものである。

補酵素 Q は 1 9 5 7 年にクレーンによって牛の心臓のミトコンドリアの脂質から発見された。天然界には上記一般式のnの数が種々の補酵素 Qが存在する。その生体内における作用については充分に知られていないが、電子伝達系に関与していると考えられている。補酵器 Q の 医薬用途としては、補酵器 Q no が 9 っ血性心不全の治療剤として現在用いられている。

本発明者は, この補酵業 Q が気管支喘息の治療 剤として有効である事を見い出した。

気管支喘息の治療には、通常気管支拡張剤が用いられるが、との気管支拡張剤の投与によっても 症状の改善が思わしくない患者に、さらに補酵素 Qを投与したところ、症状の明らかな改善が認め られた。

本発明における補酵素Qの投与量は,成人1日当り約5 中~200 中である。投与形態は経口,注射のいずれでも良く,また,投与剤型は散剤, 類粒剤,錠剤,カブセル剤,注射剤など,どのようなものであっても良い。これらは通常の賦形剤を用い、常法により製造する事ができる。

なお、補酵器Qは安全性の高い物質であり、急性及び慢性器性は次の通りである。

○急性選性 (ヲ/ Þ) 補酵素 Q io 投与

	経口	筋肉内	皮下	静脈内
ラット	4000	500	5 0 0	250
マウス	4000	500	500	250

上記投与量で死亡例なし。

o慢性毒性

ウィスター系ラット雌雄に補酵素Qnを6,60,60,600のメルノ日を連続26週間経口的に強制投与を行い、一般状態、血液、尿検査、形態学的観

-3-

やや有効、点数の変わらないものおよび逆に増加 したもの:無効と補酵器Q10の治療効果を判定した。 次に患者の例、および治療結果を示す。

息 者

,e.				
		年令(オ)	性 別	気管支喘息の種類
Г	1	7 4	女	アトピー性
	2	4 3	女	混合性
1	3	6 5	男	温. 合性
	4	75	男	アトピー性
	5	3 4	男	アトピー性
	6	4 9	男	感染性
	7	4 5	男	混合性
	8	78	男	混合性
	9	6 4	男	混合性
	1 0	· 42	女	感染 生生
	1 1	6 4	男	アトピー性
	1 2	3 1	男	感 染 性
	1 3	5 9	女	アトピー性
	1 4	50 ·	男	アトピー性
	1 5	60	男	アトピー性
	16	5 2	男	混合 性
	17	48	男	混合 性
	18	3 2	男	アトピー性
	19	61	男	心 染 性
	2 0	4 5	女	温 合 性
	2 1	4 3	女	アトピー性
	2 2	5 0	女	混合性
	2 3	23	女	アトピー性
L	24	8.0	男	温合性

祭(肉眼的,組織学的)で対照群と登を認めない。 次に実施例を示し、本発明をさらに詳しく説明 する。

奥施例1

補酵素 Q10 投与による気管支喘息患者の治療 治療剤として気管支拡張剤を投与している気管 支喘息患者で、ここ1ヶ月ぐらいの間、症状にほ とんど変化がなく、改整傾向の認められない患者 24例に、さらに補酵素 Q10 を投与した。補酵素 Q10 の投与量は1日30マで、食後3回に分け、4週 間経口投与した。

1日のうち喘息症状のない時: 0点、息苦しく 軽い喘鳴がある時: 1点、軽い発作: 3点、中程 度発作: 6点、重症発作: 9点とし、1週間の合 計点を1週間の重症度ときめ、補酵素 Qio 投与前 の1週間と投与後の1、2、3、4週間の重症度 を求めた。投与前1週間に比べて投与後4週間の 重症度が、5点以上減少したもの:著効、3~4 点成少したもの:有効、1~2点減少したもの:

-4-

治療結果

	ij	i 6	<u> </u>	£ (&	i)	ALL F	# 0
						70) 3	その
	1週間前	1 週 間後	2 週 間後	3 週 間後	4 週 間後	判	定
1	7	0	. 2	1	3	有	効
2	4	3	4	2	2	44	有効
3	1 2	7	6	6	8	有	劝
4	1 4	8	1 0	11	8	老	効
5	4	2	0	0	. 0	有	効
6	27	2.4	28	2 4	16	著	効
7	1 0	8	1 2	10	7	有	効
8	3	2	2	2	2	ヤヤ	有効
9	3	3.	3	2	3	無	効
1 0	7	8	7	6	7	無	効
1 1	1 2	4	. 7	5	4	岩	効
1 2	3 4	3 6	38	30	4 2	無	効
1 3	4	٥	0	0	0	有	効
1 4	7	1 3	6	4	3	有	効
1 5	17	7	5	8	8	老	効
1 6	1 4	7	7	6	8	若	効
1.7	14	3	6	7	7	名	効
18	2	.0	0	0	O	24	有効
1 9	28	2 9	3 4	27	2 4	有	効
2 0	18	3	7	10	6	署	効
2 1	7	3	2	4	2	著	幼
2 2	14	1 3	7	6	7	著	効
2 3	7	7	6	5	3	有	効
2 4	7	6	7	7	7	無	効

前記の表に示すように、気管支喘息患者24例の治療結果は、溶効9例、有効8例、やや有効3例、無効4例であり、治療効果のあったものは24例中20例(約83%)を占めた。したがって補酵数Q10が気管支喘息治療剤として優れている事は明らかである。

実施例 2. カブセル剤

全 盐	1 3 0 9
ポリビニルピロリドン	3 9
乳 糊	2 2 9
トウモロコシデンプン	20 🕫
敬結晶セルローズ:	8 0 🛭
補酵緊 Q10	. 5 ?

上記成分を常法により顆粒化した後、セラチン 硬カブセルに充填し、補酵素 Qia を 5 マ含有する カブセルとした。

-7-

結晶セルローズに吸溶させた後, 乾燥した。これにトウモロコシデンブン, 精製白糖, カルボキシメチルセルローズカルシウムを混合し、次いでポリビニルピロリドンの水溶液を結合剤として加えて常法により類粒化した。これに滑沢剤としてタルクを加えて混合した後, 1 錠100 m (補酵器Q105 m)の錠剤に打錠した。

实施例 5. 注射 刮

補砂架 Q10				1	0	9	
Nikkol HCO-60(商标	源,日光ケ	. ?	カ	r	メ	吐])
				3	7	9	
ゴマ 油					2	ş	
塩化ナトリウム					9	•	
ブロピレングリコール				4	0	•	
リン酸緩衝液(Q1M, pH	6.0)		1	0	0	nl	
蒸留水	全量	1	0	0	0	ul	

補酵紫 Qio, Nikko! HCO-60, ゴマ油および 半量のブロピレングリコールを混合して約80 c で加温俗解し、これにリン酸緩衝液および塩化ナ

夹	施例	3.		散		剤						
ŧ	相解	粱	Q 10						5	0	9	
ŧ	散結	A	セル	0	- メ			4	0	٥	9	
!	トゥ	Æ	- -	シ・	デン	ブン		5	5	0	9	_
_				-	3		 1	a	Ω	o	9	

補酵素 Qio をアセトンに紹解し、次いでこれを 微結晶セルローズに吸着させた後、乾燥した。これをトウモロコシデンブンと混合し、常法により 散剤とした。

実施例 4.	錠	剤			
補酵素 Q10				5	g
トクモロコ	シデン	プン	1	0	9
精製白糖			2	0	9
カルポキシメチ	ルセルロ	ーズカルシウム	1	0	9
微結晶セル	ロース	•	4	0	8
ポリピニル	r, n i)	ドン		5	8
s n g	-	-	1	0	g

補酵素Q10をアセトンに俗解し,次いでとれを微

-8-

トリウムと半量のプロピレングリコールを予め蒸留水に溶解した液を約80℃に加温して加え、全量1000型の水溶液とした。この水溶液を1型のアンブルに分注して熔閉した後、加熱酸菌した。

特許出願人 エーザイ株式 会社

1009